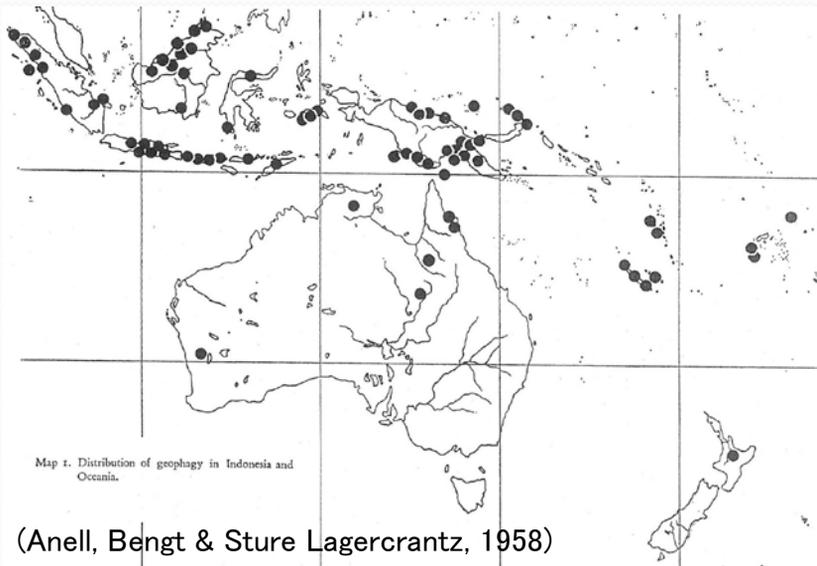


土喰う人々——儀礼的文脈に注目して

山田 仁史 氏

(東北大学大学院文学研究科)

パイカ(pica)「異食」は、土(粘土)、糊(生澱粉)、氷、チョークなどへの過剰な嗜好のことだが、とりわけ着目されてきたのは、土食ないし食土(geophagy)である。自然科学者アレクサンダー・フォン・フンボルトが南米オリノコ川流域での観察をもとに、『自然の諸相』初版(1808年)および『新大陸赤道地方紀行』第2巻(1819年)に長文の考察を載せて以来、この習俗の類例は世界各地(東南アジアも含む)から報告され、多くの研究者が取り上げるところとなった。こうして東洋学者ベルトルト・ラウファー(1930年)や民族学者ベンクト・アネル/ストゥレ・ラーエルクランツ(1958年)のモノグラフを経て、産婦人科医セラ・ヤングの最新の単著(2011年)に至るまで、ことに、饑饉時や妊娠中の女性、あるいは子供などの嗜好を生理学的に説明しようという試みは数多い。しかしここでは、儀礼的文脈たとえば宣誓(oath)に際して行われた土喰いに注目したい。それはことによると、日本中世の一味神水すなわち起請文の灰を共飲する儀礼的所作とも比較できるかもしれない。



日時

2015年12月18日(金)
16時~18時

場所

京都大学総合研究2号館
4階大会議室(AA447)



参加費・事前登録は不要です。
皆様、奮ってご参加下さい。
また、会後には懇親会を予定しております。

＜お問い合わせ先＞

小坂：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
kosaka[at]asafas.kyoto-u.ac.jp
柳澤：京都大学地域研究統合情報センター
masa[at]cias.kyoto-u.ac.jp